

まぐろ延縄における染色餌を用いた海鳥類の偶発的捕獲の回避							
[要約]まぐろ延縄漁業の釣り餌を染色することによる海鳥類の偶発的捕獲の回避効果を検討した。非染色餌に比べ染色餌を用いた場合、コアホウドリおよびクロアシアホウドリの餌を取る頻度がそれぞれ 96%および 67%減少し、 <u>染色餌の使用は海鳥類の偶発的捕獲の回避に有効であることが明らかとなった。</u>							
遠洋水産研究所 浮魚資源部 混獲生物研究室					連絡先	0543-36-6047	
推進会議	遠洋漁業関係試験研究推進会議	専門	資源生態	対象	混獲生物	分類	研究

[背景・ねらい]

まぐろ延縄漁業における海鳥類、特にアホウドリ類の偶発的な捕獲が大きな国際問題となっている。そこで、延縄の釣り餌を色素（食用青色1号）を用いて青色に染色する方法を試験し（図1）海鳥類の偶発捕獲回避の効果を検証した。

[成果の内容・特徴]

- ・2000年7月に日本近海のメカジキ延縄調査において、投縄中にアホウドリ類が餌を取る行動の観察を行った。非染色餌に比べ染色餌を用いた場合、コアホウドリおよびクロアシアホウドリの餌を取ろうとする頻度がそれぞれ96%および67%と大きく減少した（図2）。
- ・非染色餌を5,400鈎、染色餌を1,800鈎の試験操業のうち、非染色餌にはコアホウドリが1羽、クロアシアホウドリが4羽偶発捕獲されたが、染色餌にアホウドリ類が捕獲されることはなかった。
- ・海鳥類の偶発捕獲の回避策であるトリポール（海鳥を船に近づけないための吹き流し）漁具の改良および夜間操業などに比べ、染色餌の使用は取り扱いが簡便であり、操業形態を変える必要性がないという利点がある。

[成果の活用面・留意点]

まぐろ延縄漁業に染色餌を使用することは、海鳥類の偶発捕獲回避に大きな効果があると考えられた。餌の染色には時間と労力を必要とするが、操業時の手間は少なく、操業形態を変える必要性がないという利点がある。染色餌と他の回避策を適宜組み合わせることによって、海鳥類の偶発捕獲を限りなく少なくすることが可能であると考えられる。ただし、本調査では染色餌が漁獲対象魚種の釣獲率に及ぼす影響については評価することができなかった。今後、漁獲対象魚種を含めた更なる調査が必要である。

〔具体的データ〕



図1．延縄の釣り餌を染色していないもの（左）と青色に染色したもの（右）。

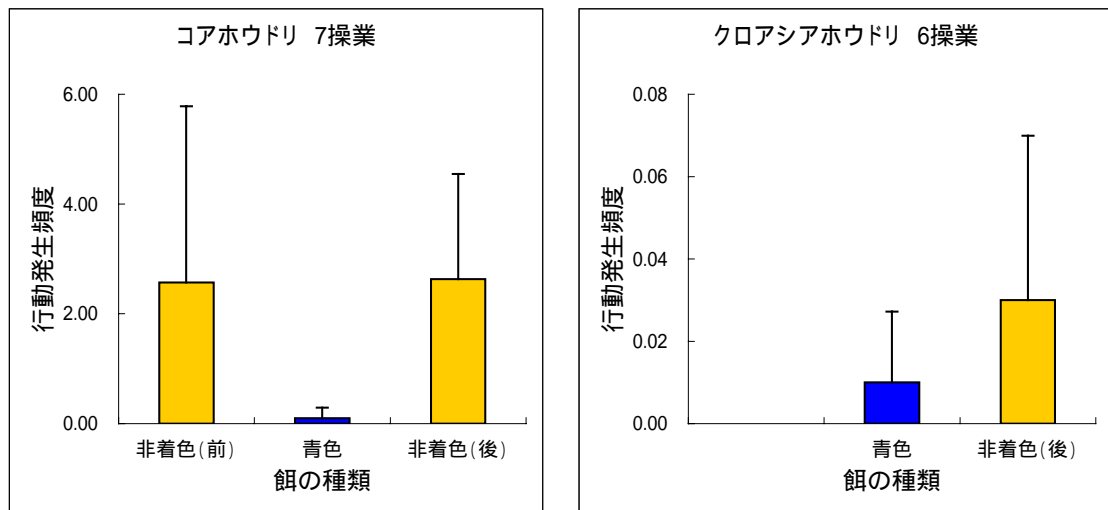


図2．染色餌によるアホウドリ類の餌取り行動の変化（図中の単位は1羽・1時間当りの行動発生頻度で、それぞれ平均値と標準偏差を示す）。1回の操業のうち、前半に非着色餌、中盤に青色餌、後半に非着色餌を使用した。

〔その他〕

研究課題名：まぐろ漁業で混獲される海鳥類の混獲実態と混獲回避に関する研究

予算区分：漁業調査

研究期間：平成12年度（平成10年～12年度）

研究担当者：中野秀樹、清田雅史、南浩史

発表論文等：青い餌は海鳥を救うか？ - まぐろ延縄における海鳥の偶発的捕獲をなくするための新しい試み -、遠洋水産研究所ニュース 第107号、2001。